

神戸商工会議所 経営経済四半期動向調査（2024年7～9月期）調査結果

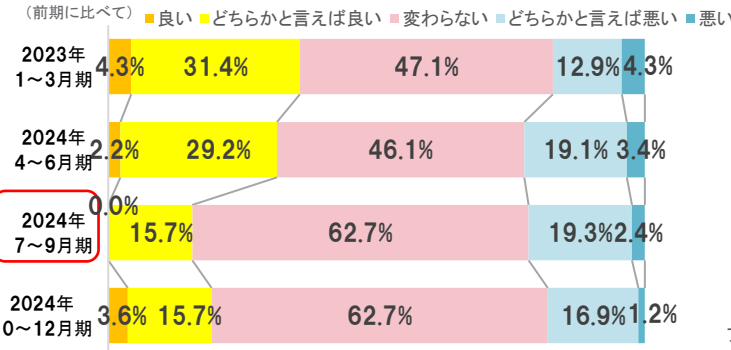
●調査対象 神戸商工会議所会員83事業所／対象103事業所
●調査時期 2024年9月2日～13日

●調査内容 1～2：定期調査 / 3：付帯調査

1. 各社の業況について

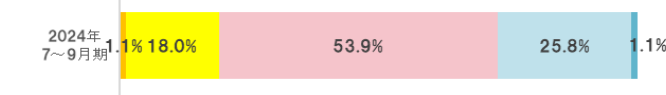
◆今期（7～9月）は、「良い」、「どちらかと言えば良い」が前期より15.7ポイント減少し、15.7%であった。また、「変わらない」は16.6ポイント増え、全体のおよそ6割を占めた。さらに「どちらかと言えば悪い」や「悪い」と回答した企業の中には小売業が多かった。

◆来期（10～12月）の予測は、およそ8割が「変わらない」、「どちらかと言えば悪い」、「悪い」を回答しており、今後の見通しに不安を抱く傾向が強い。



前期との比較 4～6月 →7～9月	良い / どちらかと言えば良い		どちらかと言えば悪い / 悪い	
	前期	当期	前期	当期
	31.4%	15.7%	22.5%	21.7%
		▲15.7		▲0.8
主な業種	食品製造、鉄鋼、輸送用機械、産業機械製造・販売、菓子製造・販売など		靴小売、スーパー、ファッション小売、百貨店、食料品小売など	

（参考） 前回調査時 2024年7～9月期 予測



2. 各社・業界での特徴的な動きなど

（1）コストの高騰と価格転嫁

- 為替、原材料高騰、人件費の高騰などにより協力工場からの価格アップの依頼が増えている。【水産食料品製造業】
- 為替関係で円安が継続的に続いており輸入価格の上昇と物流コストの上昇が利益を圧迫させている。【靴・履物製造・販売】
- 円安による輸入価格の上昇により、想定以上の価格転嫁が求められる。しかしながら、価格転嫁による買い控えが予想されており、厳しい状況が続いている。【食料卸売】
- 原材料高や人件費増は課題だが、価格転嫁は9割程度まで出来ている。【総合建設】

（2）人手不足・人材確保・採用

- 技術職員及び技能労働者ともに採用難が激しさを増している。初任給等の高騰も著しいが会社の体力を考えると簡単に追従できない。【土木工事】
- 少子化と学生の安定志向化の影響で、内定を出しても辞退される率が上がりつつある。【一般産業用機械・装置製造業】
- 最低賃金の上昇、社会保険の適用拡大等を含む人件費の増加ならびに人手不足等により、依然として厳しい状況。【各種食料品小売業】
- 物価上昇に伴う人件費の増加は定期的に実施予定。但し、永続的な圧迫要素となることが懸念。【金属加工】
- 外国人採用の拡大や賃上げを含めた社員の処遇向上を継続中。【総合建設】

（3）個人消費・受注動向

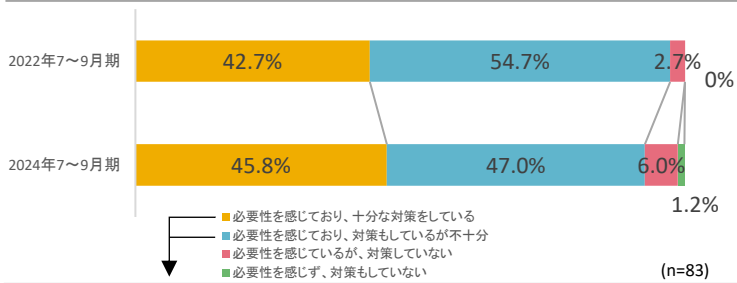
- 価格維持のため業務効率化は継続しているが、価格改定のタイミングと消費が継続されるかの見極めが非常に困難。【菓子製造・販売】
- 価格転嫁ができおり売上高は確保できているが、今後も値上げが予定されており、消費動向への影響が懸念材料となっている。【スーパー】
- 大手企業の高業績もあり、計画的な設備投資は実行されている。【電気機器卸売】

（4）その他（供給制約、為替、気候）

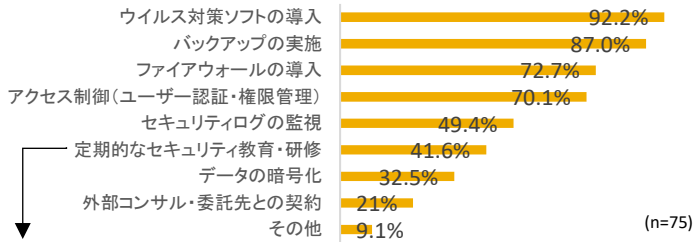
- ドル円為替の水準が引き続き円安傾向であることに加え、原材料産地でのドルベース価格が高くなってきており、製造原価の大きな部分を占める材料費が肥大化。【食品加工】
- 海洋資源の不漁により、商品の適正価格による調達に支障をきたしている。猛暑・台風など自然災害の影響も大きくなってきている。【食料品小売】
- 気候変動による猛暑や台風によってイベントの開催中止や延期で売上減やコスト上昇が予想される。【催会場装飾】

3. 情報セキュリティについて

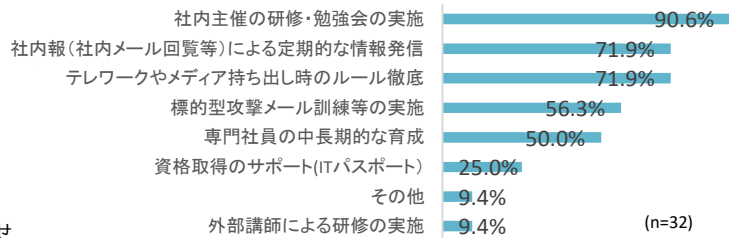
情報セキュリティ対策の認識について、2022年の調査と比較すると「必要性を感じているが、対策をしていない」と「必要性を感じず、対策もしていない」が4.5ポイント増えた。このように回答した企業のおよそ7割は被害経験のない企業であった。



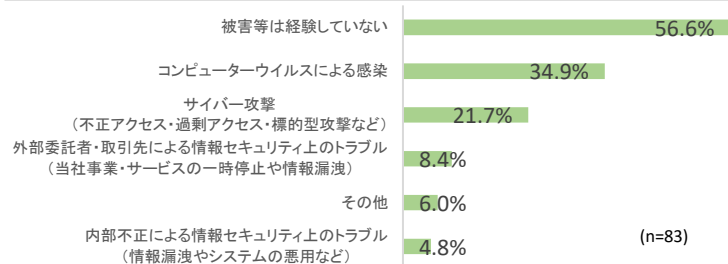
対策の実施内容について「ウイルス対策ソフトの導入」が92.2%と最も高く、次いで「バックアップの実施」が87.0%、「ファイアウォールの導入」が72.7%と続いた。（複数回答）



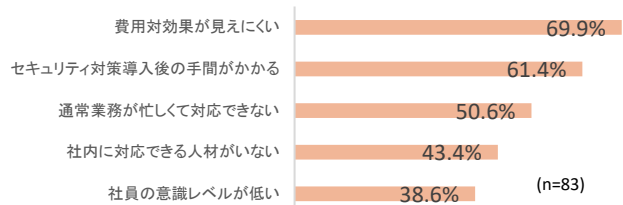
「定期的なセキュリティ教育・研修」の具体的な内容については、「社内主催の研修・勉強会の実施」、「社内報による定期的な情報発信」、「テレワークやメディア持ち出し時のルール徹底」が上位3つを占めた。（複数回答）



自社・取引先・関連先など身近で経験した・経験しそうな情報セキュリティ被害の状況について「被害等は経験していない」が56.6%と半数以上を占めたものの、「コンピューターウイルスによる感染」、「サイバー攻撃」も一定件数見受けられた。（複数回答）



情報セキュリティ対策を進める上での障害について、1～3位をつけた合計数で最も多かったのが「費用対効果が見えにくい」で69.9%、次いで「セキュリティ対策導入後の手間がかかる」、「通常業務が忙しくて対応できない」と続いた。（複数回答）



情報セキュリティ対策として今後さらに強化したい点・支援が必要な点

従業員の意識・リテラシー向上の為に研修等/情報セキュリティ担当者の育成/情報管理体制の再構築/外部専門家の定期的な検証/第3者的な相談先が必要/インシデント対応体制の確立/ Chat GPTなど生成AIを含み、AIを安価で業務に取り入れる支援/何をどう取り組んでゆけばいいのかわからないロードマップ的な、全体像がつかめるような支援/情報セキュリティ投資に対するランニングコストも含めた補助金